



三重県明和町 町制65周年

永遠とわにつづく齋王さいおうの祈り

第四十回

# 齋王まつり

6月3日土 (雨天の場合中止)

禊の儀・齋王群行・社頭の儀

上園芝生広場会場

さいくう平安の社会場

13:00~

ステージイベント

同時開催

15:30~ さいくう平安の社会場

いつきのみやマーケット

司 会 あつとえりか

12:00~20:30 上園芝生広場会場

第40回記念イベント

第40回記念花火

19:00~20:30 さいくう平安の社会場

特別ゲスト 長岡 成貢×月あかりの群行



配役

齋王  
さいおう

子供齋王



森崎 結彩  
(明和町)



山中 深月  
(津市)



北川 奈央  
(伊賀市)

采女  
うねめ



阪井 紋菜  
(明和町)



松原 佐恵  
(名古屋)



三宅 一美  
(大阪府)

内侍  
ないし



奥村 純菜  
(名張市)

女別当  
にょべつとう



小仲 真希  
(伊勢市)



渡辺 亜衣  
(明和町)



小林 明希子  
(菰野町)

女孺  
にょじゆ



坂谷 有絵  
(明和町)

命婦  
みよぶ



廣野 真智子  
(岡山市)

采女  
うねめ



山本 泰広  
(松阪市)



小山 隆司  
(津市)

風流傘  
ふうりゅうがさ



山口 慎之介  
(松阪市)

近衛使  
このえつかい



久保 美波  
(伊勢市)



植村 涼寧  
(四日市市)

女孺  
にょじゆ



廣垣 大毅  
(伊勢市)



小松 資典  
(明和町)



畑中 秀幸  
(津市)



桐山 卓也  
(津市)

齋宮十二司官人



松井 健人  
(伊勢市)

風流傘  
ふうりゅうがさ





高城 知佐  
(伊勢市)

舞人  
まいびと



小仲 一輝  
(伊勢市)



谷口 里美  
(愛知県)



齋藤 彩希  
(埼玉県)

検非違使  
けいびいし

## 童・童女 出演者 (順不同)



澤 音色



村田 優樹音

千早



山本 竜正



川下 雄大



川北 彩加



田端 琴乃

水千  
みづち



村林 咲花



鈴木 璃乃

あこめ



橋爪 咲橙



堀木 麗乃



東谷 琴心



深津 美桜

千早



山本 ももは



羽根 梨里



和田 夢彩



金澤 あずさ

あこめ



# 第四十回 齋王まつりを迎えて

第二回齋王まつりは、昭和五十八年に地元婦人会が中心となり実施されました。当初から今まで実行委員会はボランティアにより運営されてきました。ひと世代は一般的に三十年を区切りとするようですが、齋王まつりはそれを大きく超え、第四十回という大きな節目を迎えようとしています。

歴史を振り返ると、制度としての齋王は飛鳥、奈良時代から六百六十年続きました。さらに日本書紀によるとはるか二千年ほど前に天照大御神に仕える御杖代みつえしろとして倭姫やまとひめがこの地に赴いたとの記述があります。変化の激しいこの時世で齋王まつりが長く続いてきたのも、膨大な時間の中、齋宮に関わってきた人々の想いが今に至っているのかと思わずにはいられません。

第四十回齋王まつりのサブタイトルは「永遠とわにつづく齋王の祈り」です。世代から世代へ想いを受け継ぎ、永く地域の皆様に親しんでいただけるおまつりでありたいと思います。

「第四十回齋王まつり」皆さまも私たちと一緒に楽しみましょう。

齋王まつり実行委員会 企画運営班一同

6/3(土)  
(雨天中止)

13時00分～

禊の儀

上園芝生広場会場

齋王群行

上園芝生広場会場から  
さいくう平安の社会場まで

社頭の儀

さいくう平安の社会場

ステージイベント

15時30分～

さいくう平安の社会場

司会 あつとえりか

同時開催

上園芝生広場会場

いつきのみやマーケット

12時00分～20時30分

第40回記念イベント

19時00分～20時30分

上園芝生広場会場

特別ゲスト

長岡成貢×月あかりの群行

第40回記念花火

## もくじ

齋王まつり配役	2
齋王まつり童・童女出演者	3
「あそぼう!伊勢齋宮 歴史の泉」のご案内	5
齋宮跡の発掘調査	8
齋王一覧	10
いつきのみや歴史体験館の紹介	11
齋王まつりの沿革	12
図書の紹介/実行委員会組織体制	16
齋王まつり実行委員会活動	17
群行衣裳	18
フォトコンテスト	20
齋王役を務めて	22





# 「あそぼう！伊勢齋宮 歴史の泉」のご案内

齋宮歴史博物館 学芸普及課長

榎村 寛之



## 1 齋宮のラジオ番組

一昨年の四月から、齋宮をPRするインターネットラジオ番組を始めています。三月から放送局が変わり、「みんなのゆめかなRadio 大阪府」というサイトで金曜日の夜八時から配信される三十分番組です。この名前で検索していただくとトップページに飛べ、そこに「あそぼう！伊勢齋宮 歴史の泉」のロゴがあります。また、『過去の番組はこちらから』をクリックいただくと、一月六日以降の番組を聴いていただくことができます。この番組と八時三十分からの番組「なかのつちの集まれ！齋宮すたじお」と合わせて、一時間齋宮の色々な情報をお届けする時間となっています。

さてこの番組ですが、毎週、今の齋宮の話題、齋宮跡で行われるイベントや齋宮歴史博物館の展覧会の事前告知のほか、より詳しく楽しんでいただく

ための齋宮ひと口話など、単なる案内に留まらない様々な裏ネタを提供しています。

## 2 増え続ける齋宮のイベント

齋宮跡はイベント広場には事欠きません。何か所もの芝生広場があります。もともと国の史跡に指定されている齋宮跡は東西二キロメートルの広さがあり、特に近鉄線より北側は公園整備が進んでいることもあり、広々とした開放的な空間になっています。多くのお客様が齋宮駅の北側史跡公園側の出口に降り立つと、口々に言われるのです。

### 「空が広い」

そう、齋宮の史跡として五十年もの間守られてきたことで、齋宮は伊勢市や松阪市にも近いのに、大きな建物もできないまま、自然景観がよく残され、のびやかでさわやかな所になっ

ているのです。それを象徴するのが芝生広場です。車が走ることもない、視界をさまたげるものもほとんどない、これまではそうした空間は「齋王まつり」をはじめごく限られた機会しか活用されませんでした。しかし最近、音楽ライブや親子の方々を対象としたイベントなどが、新しい主体によって次々に創られ、利用が活発化しています。

そしてこれまでの菜花やコスモスなどに加え、竹神社や「さいくう平安の杜」の傍に本格的なお花畑が造られ、その見どころが紹介できるようになりました。

もちろん齋宮歴史博物館は、春・夏の企画展、秋の特別展の、今しか見られないレア情報をはじめ、常設展示の楽しみ方から、一点の遺物のヒミツに至るまで、ネタの宝庫です。

ラジオではこのような博物館や明和町の最新情報をお届けしていますので



が、それだけでは「歴史の泉」になりません。合わせてお届けしているのは、その時期に関わる齋王、齋宮、伊勢神宮などの歴史的な話題です。

### 3 齋宮は歴史ネタの宝庫

たとえば正月には齋王はどのような儀礼を行っていて、それは今の正月のイベントとどのように関係しているのか。

二月なら祈年祭という齋宮が立地している多気郡、神宮のある度会郡の神社を結び付ける予祝（農作業の始まりに豊作祈願を行うこと）の祭が齋宮で行われていて、神宮の祈年祭とは違う形で行われていたこと。

四月には伊勢神宮の内宮に神様の衣装を奉納する神衣祭が行われ、そのための機殿（機織り工場）が齋宮近くの多気郡内に置かれていて、江戸時代に再興されて今も残っていること。

五月晦日と十一月晦日には齋宮近隣の川（おそらく竹川と呼ばれる川で、今の祓川にあたる川）で齋王が川での禊を行うこと。

六月と十二月には神宮の月次祭に

齋王が参加し、神宮の参拝を行うこと。

八月末と十月末には大淀の浜で齋王が海での禊を行うこと。

それに連続して九月には神宮神嘗祭の齋王の参詣と拝礼があること、

そして十一月には齋宮で祈年祭に対応する収穫祭である新嘗祭が行われること

などが話題になるのですが、それぞれのイベントに関わるエピソードを紹介し、千年以上昔の齋宮の日常に親しめるトークを行っていきます。

しかし齋宮に関わる話題はこれだけではありません。たとえば明和町内には日本遺産に指定されている齋宮関係遺跡、『伊勢物語』にも出てきて、さいくうのによつこよしじょう齋宮女御さいくうのむすめ齋宮女王という十世紀の齋王の歌にも詠まれている大淀の港の話、伊勢神宮を置いたとする倭姫命やまとひめのみことに関わる佐々牟江宮の伝説、神宮三節祭（九月神嘗祭・六月・十二月月次祭）に奉納され、神宮の玉垣に掛けられる「懸税稲かけちからぬいね」にまつわる伝説や、この地で亡くなった齋王隆子女王、惇子内親王の墓と近代に指定された古墳の話、齋王・齋宮の顕彰の歴史、そして御館、


齋王・齋宮の顕彰の歴史、そして御館、

## みんなのゆめかな 三重明和ステーション

あそぼう！伊勢齋宮☆歴史の泉

★毎週金曜日 20:00~20:30

☆DJ 榎村寛之  
(文学博士 齋宮歴史博物館職員)  
瀬田 萌  
(第26代 齋王役、明和町観光大使)



伊勢神宮と絡めたおもしろい歴史と明和町の魅力をお話します。



## なかのっちの集まれ！齋宮すたじお☆

★毎週金曜日 20:30~21:00

☆DJ 中野 敦夫  
(齋宮すたじお 代表)  
瀬田 萌  
(第26代 齋王役、明和町観光大使)

集まってくれた人たちと日々感じたことや生き方、経験話。そして明和町のまちづくり情報などをワイワイガヤガヤと楽しくおしゃべりします。

三重明和ステーション♪  
齋宮すたじお  
〒515-0321 三重県多気郡明和町大字齋宮3016-1  
TEL: 059-4864-0518 (携帯: 代表 中野敦夫)  
Mail: Mail: anakano@company.net

## みんなのゆめかな インターネットラジオ どうしたら聴けるの？

みんなのゆめかな  
↓ 入力をクリック  
みんなのゆめかな Radio大阪府  
をクリック



☆過去（1か月間）の放送聴くなら  
すぐ聴くならをクリック



## 齋宮すたじお

〒515-0321  
三重県多気郡明和町大字齋宮3016-1  
Mail: anakano@company.net




HP 位置図



花園、祓戸など史跡内にも齋宮や古  
代史に関わる地名がたくさん残って  
いることなどを紹介していると、次々  
に新しい話が増えてくるのです。

そしてもちろん齋宮といえは発掘  
調査です。齋宮の発掘成果の最新の話  
題、齋宮で発掘された興味深い遺物、  
普通に使われていた土器からわかる  
齋宮の日常生活、建物の痕跡からわか  
る齋宮の生活の様子、など、発掘に関  
わる情報も枚挙にいとまがありません。  
齋宮以外ではなかなか見つからな  
いひらがなを書いた墨書土器の中か  
ら、日本最古の「いろは歌」を書いた  
墨書土器が出てきた話、などという話題  
もあつたりします。

#### 4 ラジオが導く新発見

さて、齋宮関係の地名といえは、こ  
んなことがありました。博物館の北  
側に中海という地名があります。読み  
方は「なこみ」で「なかのおみ」が  
縮んだ言葉です。「なかのおみ」とは  
「中麻績」で、伊勢神宮の神衣祭に関  
わる麻績氏、つまり麻糸を紡いで反  
物にする技術を持った氏族に由来し

ています。そして近くには「麻績神社」  
「織殿神社」があり、麻績氏に関わる  
神社と見られ、現在は松阪市域にある  
機殿で働いていたのはこのあたりの  
人たちで、通っていた道があるという  
伝説も知りました。

この麻績氏は多気郡の郡司を務め  
た地域の有力氏族で、絹織物を調製す  
る服部氏とともに古代から中世まで  
神宮に奉仕していた氏族です。その名  
残は伊勢神宮の機殿が今でも、神麻績  
機殿、神服織機殿と呼ばれているこ  
とも残っています。そして麻績神  
社は齋宮に関する基本的な法律であ  
る『延喜齋宮式』でも、齋宮の祈年祭、  
神嘗祭で幣帛（神様へのプレゼント）  
を渡される神社の一つでもあります。  
服部氏に関わる神社としては、服部麻  
刀方社という神社の記録があり、麻刀  
方は「まとかた」で、的形と見られま  
す。的形は『万葉集』などから、持統  
上皇が伊勢から三河に行幸した時に  
船出をした港で、重要な港が服部氏  
の勢力圏にあつたことがわかります。  
そして中海と的形はいずれも齋宮よ  
り北側の地域にあり、伊勢神宮の祭祀  
に関わり、多気郡の行政を行う氏族の

本拠、古代の多気郡の一方の中心地域  
が海岸線近くにあつたことがうかが  
えるのです。

こんな感じで、齋宮周辺の話題を  
拾っていくと、色々新しい発見があ  
り、それをまたラジオで発信してもい  
るのです。

#### 5 さいくうラジオのこれから

明和町で毎週ラジオ放送ができる  
ようなネタがある？これは私がラジ  
オの話を受けた時に持った感覚でし  
た。しかしラジオ開始から二年たつた  
今、まだまだネタは尽きそうにありま  
せん。ディレクターのなかのつちこと

中野敦さん（元明和町齋宮跡・文化観  
光課課長）とアシスタント、齋王ま  
つりの齋王出身のめばえちゃんこと  
瀬田萌さんのお力によるところもと  
ても大きいです。そして明和町では、  
明和町の齋宮跡・文化観光課や（公財）  
国史跡齋宮跡保存協会、明和町観光協  
会、そして新たな活動が定着してきた  
一般社団法人明和観光商社など多く  
の団体が、史跡内各地、いつきのみや  
歴史体験館、いつきのみや地域交流セ

ンター、さいくう平安の杜など多くの  
施設を利用して色々な活動を行って  
います。ラジオではそれも随時紹介し  
ているので、新しい話には事欠きませ  
ん。一人一人が持っている齋宮や明  
和町についての小さな話が集まると、  
齋王のいた時代にまでつながる大き  
な話になることもあり、小さな知恵  
の結集が、新しい齋宮の情報を形作っ  
ています。

そしてこれまでは本放送と再放送  
二回程度しか聴いていただく機会が  
なかったのですが、新体制になりいつ  
でも何度でも聴いていただけるよう  
になりました。

というわけで、これをお読みになつ  
た皆様、ぜひ一度「あそぼう！伊勢  
齋宮 歴史の泉」をお聴きください。  
そして、こんな話を詳しく聞きたい、  
とか、こんな話知ってるよ、というよ  
うな話題があれば、番組宛どんどんお  
寄せください。齋宮のネタ、齋宮の謎  
はまだまだ数多く眠っています。  
さいくうラジオは始まったばかり  
です。





# 国史跡齋宮跡の発掘調査

（奈良時代齋宮の解明へ）

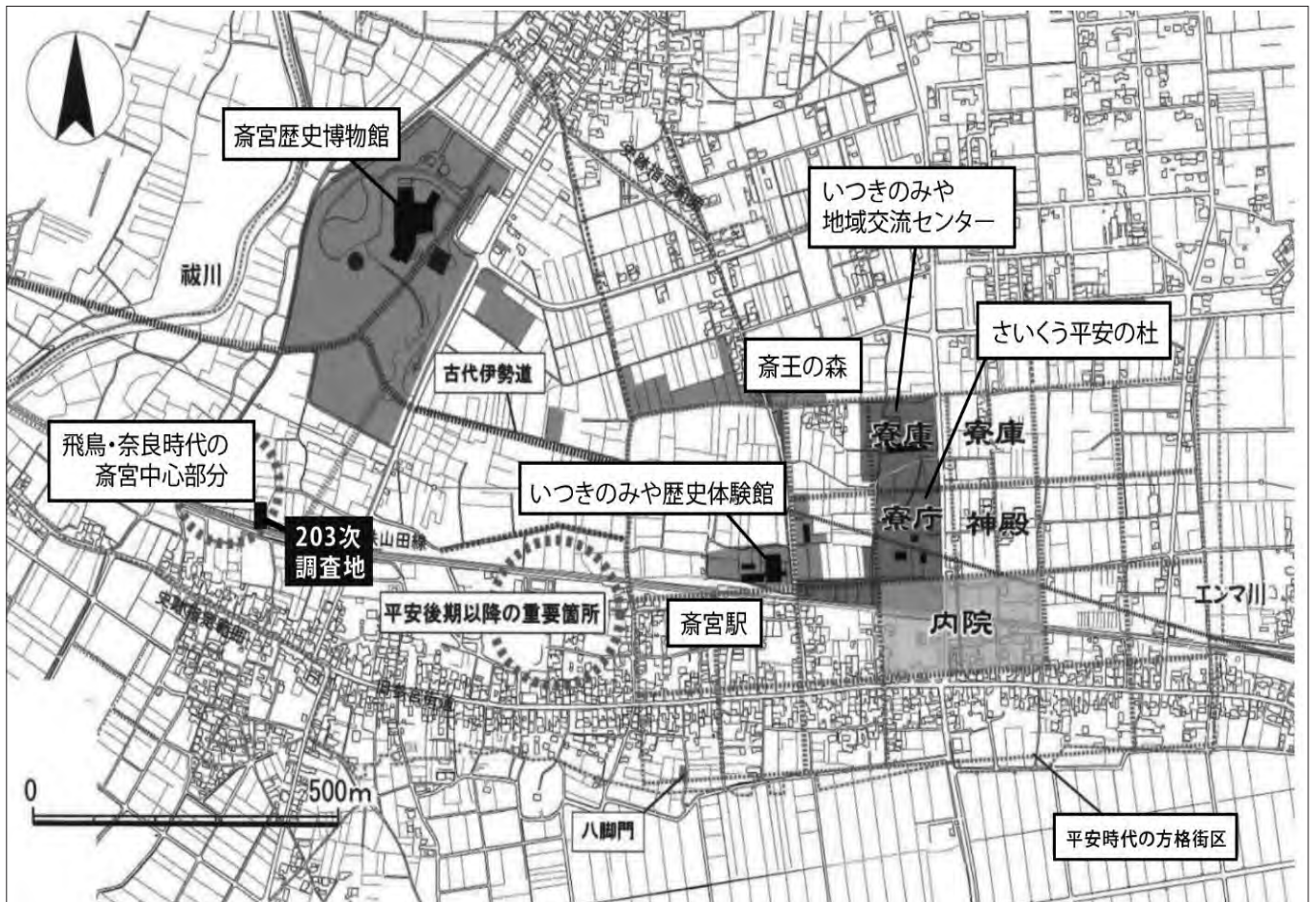
国史跡齋宮跡では、齋宮歴史博物館が中心となり、地域の皆さまや明和町の協力のもと、一九七〇年から実態解明のための発掘調査を続けてきました。平成二十八年までの発掘調査は主に平安時代の齋宮の調査に重点を置いてきており、その結果、奈良時代末から平安時代初め（八世紀末から九世紀前半）に、都と同じ設計方法で、平安京と同じような碁盤の目状の区画が造られていたことがわかってきました。当時としては東海地方最大級の古代都市がここ明和町にあったのです。

## 飛鳥時代齋宮の解明

その後、実在が確認できる最初の齋王である大来皇女の時代、飛鳥時代の齋宮の実態を明らかにするため、史跡西部の中垣内地区において

重点的な発掘調査を令和三年度まで続けてきました。その結果、掘立柱塀で囲われた方形区画を確認しました。この方形区画は一回の建替えがなされ、最も広くなる建替え後の規模は東西約四十・八m・南北約五十八mと想定され、その方向は東に約三十三度傾くという特徴があります。区画の中は、掘立柱塀の東辺・西辺に沿って南北に長い掘立柱建物が二棟ずつそれぞれ脇殿状に並び、一番南は東西方向に長くなるように掘立柱建物が配置されたと考えられます。区画の北部には、両側の脇殿の掘立柱建物が挟まれて、正殿が確認されています。正殿の前の空間は広場として空いていたと考えられます。

この区画と、その西側の段丘崖の間の空間には、倉庫群が建てられて



※古代の遺構を地図上で示しています。現代の道路等とは異なる部分がありますのでご注意ください。

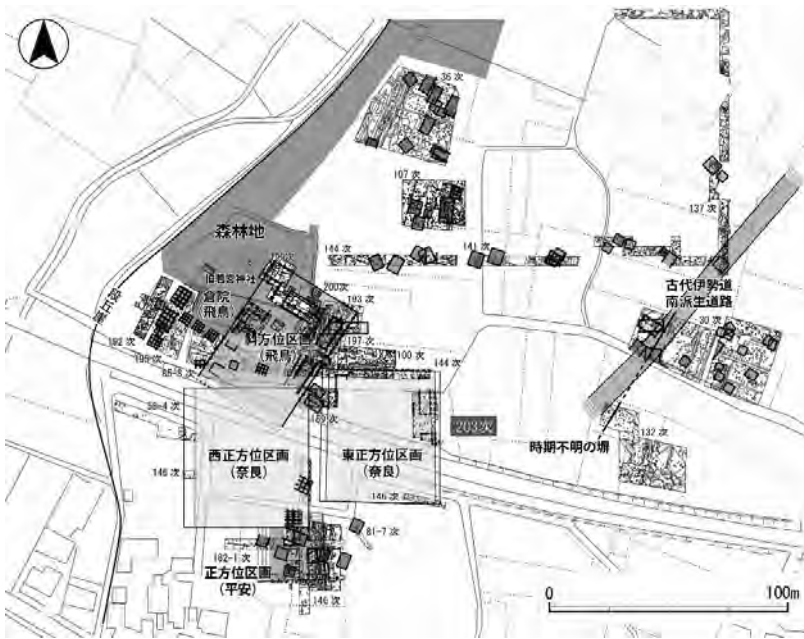
第1図 国史跡齋宮跡全体図





第203次調査区全景（北西から）

【明和町齋宮跡・文化観光課撮影】



第2図 史跡西部の解明状況

## 奈良時代齋宮の解明

いたことが確認でき、おそらく都から古代伊勢道をたどって伊勢へやってきた人々は、段丘上に建つ壮大な倉庫群、そしてその奥に見える掘立柱塀を目にしただろうと想像されます。

方形区画の建替えが、齋王の交替によるものかどうかはわかっていません。ちなみに、飛鳥時代、伊勢へ群行した齋王は四名です。

飛鳥時代の方形区画の南に、ほぼ

真北方向の掘立柱塀で囲われた二つの方形区画が東西に並ぶことが、平成二十八年度の調査で確認されました。

西側の区画は東西約四十八m・南北約五十八mで、区画内部の建物配置等は不明です。東側の区画は、南北は約五十五・五mと想定されて

いますが、東側の掘立柱塀が確認されていないため、東西方向の規模は不明です。この東方形区画では、令和元年度の調査で区画北西角を確認

しており、掘立柱塀は二回の建替えがなされていること、一回目の建替

えで西へ掘立柱塀の西辺を移動させていることがわかりました。齋宮歴史博物館は、令和四年度から奈良時代の齋宮の実態解明に取り

掛かりました。まず、東側の方形区画の規模を明らかにすることを目的に第二〇三次調査を実施しました。

その結果、東側の掘立柱塀が確認でき、これが古い段階の塀だとすれば、東側の方形区画の規模は東西が四十六・二mとなります。

また、区画の内部には掘立柱塀に沿って南北に長い掘立柱立物が二棟並ぶこと、この掘立柱建物の西にも建物が建てられていることがわかりました。

奈良時代の齋王として、仏教政策を進めた聖武天皇の娘である井上内親王の他に、四人の齋王が伊勢へ群行しています。

令和五年度も引き続き、この東側区画の内部構造を明らかにするため発掘調査を行い、奈良時代齋宮の実態を明らかにしていきます。引き続き、齋宮跡の発掘調査にご注目ください。

（齋宮歴史博物館 調査研究課 山中由紀子）







# いつきのみや歴史体験館

齋宮は、天皇に替わって伊勢神宮に仕える皇女、齋王が居住した宮殿及び役所から成り、未婚の齋王が歴代天皇ごとに選ばれて伊勢に派遣されるといふ唯一の制度は、飛鳥時代から南北朝時代にかけて約六百六十年間も存続しました。

その遺跡である史跡齋宮跡はここ明和町にあり、昭和五十四年三月に国の史跡に指定されました。



この史跡内にある近鉄齋宮駅を下車して、すぐ北側にみえる木造の大型建物。これが、「寝殿造」と呼ばれる貴族の邸宅を模して建てられた「いつきのみや歴史体験館（以下「体験館」という）」です。この施設では、齋宮が最も栄えた平安時代にスポットを当て、その時代を生きた齋王をはじめとする王朝人の生活や文化を体験を通じて学ぶことができます。博物館や資料館ではなく歴史体験館という名称が付けられたのは、そのためです。館内の展示物には自由に触れることができ、そのほとんどが無料というのも魅力です。

特に人気の高い体験は、平安装束試着体験（有料・予約制）です。色の組合せが美しい十二単や厳かな直衣のほか、子供用としての細長・汗衫・水干などを、専門のスタッフにより解説を交えながら着付けをいたします。

さらに特別な日には、格式高い平安装束に身を包み、優美なひとときをお過ごしいただける「十二単でウエディング」がお勧めです。「もつと素敵に……もつと自由に……」をモットーに、ご希望に合った新しいウエディングの形を提案します。一つは、現代風にア

レンジした人前式を取り入れた「ウエディングプラン」。金婚式や銀婚式に、記念日に大切な人へ「ありがとう」を伝えたいなど、ニーズに合わせてあなただけのウエディングをプロデュースします。ご家族はもちろん、ご友人の参列も可能です。もう一つは、ゆっくと撮影が楽しめる「フォトプラン」。ウエディングの思い出に、前撮りや結婚記念日など様々なシーンにお選びいただけます。

さらに見逃せないのが、体験館ならではのイベントとして実施する「いつきのみや観月会」です。これまで平安時代の雅な月見の宴を少しでも体感していただけるよう、中秋の名月に近い日（新暦の九月後半頃）に実施してきました。令和元年度から令和三年度まで新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止し、令和四年度は代行イベントとして「ろうそくと竹の灯りイベント」のみ実施しましたが、今年度は、九月二十九日（金）に久々に「いつきのみや観月会」を計画しています。是非ご来場いただきますようよろしくお願いいたします。

また、紹介したこれらの体験やイベント以外にも体験館では、平安文化に触れることのできるあらゆる体験プログラムを開発・提示しています。王朝人になった気分で、色々な場面でインスタ映える写真を自由にお撮りくだ

さい。最後にお知らせがございます。体験館は開館して二十四年目を迎えます。設備等の経年劣化により、令和五年十二月から令和六年二月までの三カ月間、館内の空調設備改修工事のため休館させていただきます。ご来館、ご利用される皆様には大変ご迷惑をお掛け致しますが、ご理解、ご協力賜りますようよろしくお願いいたします。すでに体験館内の照明はLED（発光ダイオード）照明に一新されており、さらに空調設備改修工事以降は年間を通して快適に体験いただける環境が整います。これまで以上の皆様のご来館をスタッフ一同心よりお待ちしております。

## いつきのみや歴史体験館

開館時間 9:30~17:00  
(入館時間は16:30まで)

休館日 月曜日(休日の場合は翌日)

入館料 無料

〒515-0321

三重県多気郡明和町齋宮3046番地25

TEL.0596-52-3890 FAX.0596-52-7089

ホームページ: <https://www.itukinomiya.jp/>





# 齋王まつりの沿革 (第31回～第39回)

第32回 H26. 6. 7～8 子ども齋王は、津市成美小3年の岡田心海ちゃんに決定しました。

第30代齋王役には、伊藤暁美(菰野町)さんが選ばれました。

「よみがえる平安の都齋宮」をテーマに企画され、特別ゲストにアパッチ宮原さんを迎え民族楽器と太鼓演奏で会場を魅了しました。



第31回 H25. 6. 1～2 第29代齋王役に、古川みゆき(四日市市)さんが選ばれ

子ども齋王役には、神農ありさ(鈴鹿市旭が丘小)ちゃんが大役を務めていただきました。

前夜祭では「むかし男ありけり、その男伊勢の国に…」ではじまる伊勢物語第69段在原業平と恬子内親王との一場面をステージで再現をしました。



また、河川・湖沼環境保全還元活動で漫画家の「美内すずえ」さんにお越しいただきました。





第34回 H28. 6. 4～5 子ども齋王は高岡璃音（北名古屋師勝南小4年生）ちゃん  
 第32代齋王役には、八木美海（津市）さんが選ばれました。  
 群行コースが変更され、新しく完成した「平安の杜」（実物大復元建物）で出発式が行われました。



第33回 H27. 6. 6～7 第31代齋王役は前田彩乃（明和町）さんが選ばれ  
 子ども齋王役には、石谷好花（明和町）ちゃんが決定しました。  
 この年は、明和町のキャラクター「めい姫」のテーマ曲「ユ〜めい姫ドリーム」<作詞 山本芳登  
 （伊勢市）さん作曲 長岡成貢氏>が誕生し、振付が初披露されました。  
 そして、この明和町が「祈る皇女齋王のみやこ齋宮」として日本遺産に認定されました。





第36回齋王まつり平成30年6月2日～3日子供齋王は、西村まなみちゃん（明和町）  
第34代齋王役には、中保友里さん（津市）選ばれました。



ステージは「竹あかりアート川渕皓平」氏とコラボ

両日とも好天に恵まれ、大勢のお客様にお越し  
いただきました。



第35回 H29.6.3～4子ども齋王は、竹林優奈（伊勢市修道小）ちゃんが  
幸運を引き当て、第33代齋王役には、中前安薫（大阪市）さんが選ばれま  
した。

今年は両日とも、お天気も良く大勢のお客さまにお越しいただきました。



二年ぶりに「禊の儀」が復活し、また見どころも増え群行コースも  
「出発式（平安の杜）—禊の儀（上園広場）—社頭の儀（博物館会場）」  
となりました。



第39回齋王まつり 令和4年6月5日（土）

第37代齋王役菅生夏希（津市）さんが選ばれました。



3年ぶりの開催となり  
たくさんのお客様に  
お越しいただきました。



第38回齋王まつり第36代齋王役は梅田優歩さん、子ども齋王には杉山釉菜（齋宮小）ちゃん  
コロナ禍で開催中止となり、代々齋王さまが受け継がれてきた「檜扇」の伝承式をいつきのみや  
歴史体験館にて関係者のみの立会でとり行いました。

令和3年 檜扇伝承式のみ開催  
令和2年 完全中止（翌年延期）



第37回齋王まつり 令和元年6月1日～2日

第35代齋王役には橋本茉奈（大紀町）さん、子ども齋王役には飛矢地愛結（松阪市）ちゃんが  
選ばれました。



元号も新しく「令和」となり改元記念として「大来皇女」物語を企画しました。





# 図書の紹介

私達の「齋宮」について  
より多くを知っていただくために  
―地元で読める齋宮関係図書のご紹介―

凡例  
○ふるさと会館（図書館）で貸出可 ○ふるさと会館（図書館）で閲覧可  
☆いつきのみや歴史体験館・博物館ミュージアムショップで販売  
◇齋宮歴史博物館図書ホールで閲覧可

<p>「齋宮」の入門書として</p>	<p>谷口布有緒文 里中満智子画『齋王ロマン 都わすれの詩』明和町◎☆ 中野イツ著『齋宮物語』明和町◎☆ 山川修司著『語り部の竹の齋王語り』近代文芸社◎☆ 榎村寛之著『伊勢齋宮と齋王』塙書房☆</p>
<p>郷土の歴史として「齋宮」を知りたい方に</p>	<p>奥井宏忠著『別れの御櫛―齋の宮と齋宮寮』光書房○○ 明和町教育委員会編『郷土史に見る齋王』○○ 三重の文化財と自然を守る会編『伊勢齋王宮の歴史と保存』○○ 『同II』◇</p>
<p>齋王二行の旅した「群行」の道を歩いてみたい方に</p>	<p>田畑美穂著『齋王のみち―伊勢齋宮の文化史―』中日新聞本社○○ 村井康彦監修『齋王の道』向陽書房◎☆ 内田康夫著『齋王の葬列』角川書店◎◇ 池田美由喜著『鷲草―大津皇子とその姉と―』新風舎◇ 郡俊子著『倭姫宮の御巡行』勢陽文芸◎◇ 々々 『伊勢齋王の恋』近代文芸社◎◇ 々々 『哀しみの伊勢大来齋王』近代文芸社◎◇</p>
<p>「齋王」を小説で読んでみたい方に</p>	<p>津田由伎子著『齋王』学生社○○◇ 山中智恵子著『齋宮女御御子女王―歌と生涯―』大和書房◎◇ 々々 『齋宮志』大和書房◎◇ 々々 『続齋宮志』砂子屋書房◎◇ 々々 『齋宮箚記』砂子屋書房◎◇ 所京子著『齋王和歌文学の史的研究』国書刊行会◇ 々々 『齋王の歴史と文学』国書刊行会◇ 榎村寛之著『律令天皇制祭祀の研究』塙書房◇ 中川ただもと著『齋宮和歌の解釈と鑑賞』紫明の会☆ 服藤早苗著『歴史のなかの皇女たち』小学館☆</p>

## 第40回（令和5年度）齋王まつり実行委員会組織体制

（敬称略・順不同）◎班長 ○副班長

<p>本部</p>	<p>代表 森田 均 副代表 東谷 泰介 本部役員 森下 清（設営担当） 土井 祐治（総務担当） 山中いづみ（事務局補佐） 事務局 福浦 理恵</p>	<p>名誉会長（町長） 世古口 哲哉 顧問 西場信行 浜井初男 大西宏明 奥山 幸洋 西井 正 辻 丈昭 森下 清 長岡成貢 山川 充造</p>	
<p>会計監事</p>	<p>徳田 均 久世 晃</p>	<p>相談役 辻 孝雄 森島啓之 橋本久雄 東谷泰明 新田一子 安永真理子（出演者所作指導）</p>	
<p>企画運営班</p>	<p>まつり全体の企画、運営 協賛金の計画 各班への業務依頼・調整 ※班員は各班の主要実務を兼務すること</p>	<p>◎本部管轄 北村裕紀 高橋真衣 大野竜司 大西悠太 山口隼人 ○オブザーバー（各班長） 瀬田萌 永井健太 西道涼 北岡純 北川修平 早川潤一 森菜津子 西宮幸代 山内 理</p>	
<p>総務班</p>	<p>総務の実施のほり・看板、警備計画実施 シャトルバス駐車場管理 総合案内・グッズ販売</p>	<p>◎早川潤一 ○市野秀世 ○丸山浩紀 ○世古口典剛 竹内克巳 田中真司 辻 正 田端正俊 乾 健郎 奥山幸洋 樋口文隆 高橋浩司 長岡 孝 下村幸一 間宮辰典 中井啓悟 西岡 潤 石田真也 森川高広 前田 航 和佐田 照夫 宇田雅行</p>	<p>22</p>
<p>着付会場班</p>	<p>着付会場内の管理 出演者の移動 記念写真</p>	<p>◎森 菜津子 ○北川和樹 ○江 京子 石田豊喜 澤 恒一 中瀬正実</p>	<p>6</p>
<p>着付班</p>	<p>着付け準備と後片付け</p>	<p>◎西宮 幸代 ○衣斐喜代美 ○菊矢照子 ○北山良子 ○寺西照美 富山正美 森下昌子 森 洋子 新谷千恵子 森 洋子 八田明美 直井佳代 高杉恵子 高杉恵子 下村亜都子 満尾清佳 濱野恵 澤 美沙都 富山 美津子</p>	<p>17</p>
<p>まつり実施班</p>	<p>前夜祭の実施 アトラクションの実施 社頭の儀の実施 群行の実施 出発式の実施 禊の儀の実施 齋王市の実施</p>	<p>◎東谷 泰介（副代表兼務） ○野上但治 ○永井健太 ○浜口浩和 ○中谷優太 ○北岡 純 ○北村裕紀 ○高橋真衣 ○大野竜司 ○大西悠太 ○山口隼人 ○西岡信行 ○西道 涼 ○北川修平 ○瀬田 萌 伊藤佳史 永鳥せい子 中島 宏 ○中島 宏 井尻季幸 仲 勇人 佐々木久夫 長谷川新 和佐田道子 喜多由香子 秋山修一 笛川 浩 岩佐康則 岡山博哉 北村 哲也 北村 哲也 川合翔平</p>	<p>31</p>
<p>広報班</p>	<p>ポスター・パンフレット原案作成 広報・宣伝事業計画</p>	<p>◎山内 理 苗村明利</p>	<p>2</p>





## 第39回（令和4年度）齋王まつり実行委員会活動報告（敬称略）（敬称略）

- 1月 7日(金) 会計監査
- 21日(金) 役員会
- 28日(金) 総会(中止)
- 3月 15日(火) 役員会
- 22日(火) 出演者募集締切
- 25日(金) 役員会（第39回齋王まつり開催決定）  
総務班会議(協賛金、のぼり立てについて)  
まつり実施班
- 4月 10日(日) 配役選考会(いつきのみや地域交流センター)
- 17日(日) 倉庫の片付け
- 25日(月)～5/25(水) 十二単、直衣、女官衣裳展示(宝生苑)
- 29(祝・金) 看板作成
- 5月1・2日(日・月) 竹切り
- 2日(月) 十二単展示用着付
- 2日(月) 十二単展示準備(イオンモール明和)
- ～3日(火・祝) 十二単展示
- 8日(日) ステージ組立準備
- 9日(月)～6月5日(日) 齋王まつりいざない展(十二単、狩衣展示)(イオンモール明和)
- 13日(金) リーフレット回覧(明和町全戸配布)
- 15日(日) ステージ組立
- 20日(金) 全体会議
- 22日(日) のぼり立て、看板設置、ステージ組立  
齋王・内侍リハーサル(安永真理子さんから所作指導)役場研修室  
依頼出演者説明会(役場委員会室)
- 24日(火) いつきのみやマーケットと会議
- 28日(土) ステージ組立
- 29日(日) ステージ組立、看板設置
- 31日(火) 三重TV女別当(三木浩江さん出演、齋王(菅尾夏希さんビデオ出演))
- 6月 1日(水) 衣裳準備(着付け班)
- 3日(金) 最終準備
- 4日(土) 説明会、リハーサル、ステージ最終調整、アトラクリハーサル
- 5日(日) 齋王まつり 当日竹神社にて安全祈願・鎮魂祭
- 12日(日) 片付け
- 26日(日) 本部会議
- 6月 15日(金)～9月1日(木) 十二単衣裳展示(戸田家)
- 7月 15日(金) フォトコンテスト応募締切
- 27日(水) フォトコンテスト一次審査
- 31日(日) 第40回齋王まつり 実行委員への参加の可否
- 8月 3日(水) 役員会(フォトコンテスト入選・入賞作品選考)応募者47名 86作品
- 31日(水) 全体ミーティング(延期)
- 9月 10日(土) 明和町ふるさと寄附(納税) 日本遺産「祈る皇女 齋王のみやこ齋宮」満喫プラン
- 11日(日) 第39回齋王まつりフォトコンテスト表彰式  
第39回齋王まつりフォトコンテスト入賞・入選写真展  
(斎宮歴史博物館にて9月25日まで)
- 27日(火) フォトコンテスト写真撤回
- 28日(水) 全体ミーティング
- 10月 5日(木) 十二単のレンタルと試着体験(さいくう平安の杜)
- 6日(金) //
- 12日(水) 企画運営班(仮称)会議
- 14日(金) 役員会
- 17日(月) 十二単のレンタルと試着体験(さいくう平安の杜)
- 26日(水) 臨時総会
- 11月 2日(水) イオンモール明和「開店21周年祭」ポスター展・齋王撮影会準備
- 3日(木・祝) イオンモール明和「開店21周年祭」ポスター展・齋王撮影会
- 3日(木・祝) プロジェクションマッピング2022 齋王出演(さいくう平安の杜 正殿)
- 4日(金) イオンモール明和「開店21周年祭」ポスター展・齋王撮影会 舞台撤回
- 6日(日) イオンモール明和「開店21周年祭」ポスター展・齋王撮影会 ポスター撤回
- 25日(金) 事務員募集 回覧
- 12月 1日(木) 第40回齋王まつり出演者 募集開始
- 13(火) 役員会(群行、社頭の儀、ステージ演出の内容、スケジュール決め マルシエ内容決め他)
- 19日(月) 本部会
- 23日(金) 十二単展示用着付
- 26日(月) 事務員面接
- 26日(月)～1月16日(月) 十二単、直衣、女官衣裳展示(シーサイドホテル)
- 29日(木) 齋王市打合せ



# 群行衣裳



長奉送使【ちようぶそうし】



監送使ともいう。齋王一行を伊勢まで送り届ける群行の最高責任者。沿道における警察権が与えられており、任を終えると直ちに帰京しました。

検非違使【けびいし】

平安時代から室町時代にかけて京中の警察を担当した職。元来、平安京の治安維持は京職や衛府の任であったが、特定の官人に京中の警察を担当させることがあり、それが検非違使となり、やがて衛府や京職・弾正台などの権限を吸収し、王朝国家有数の警察機関となったのである。

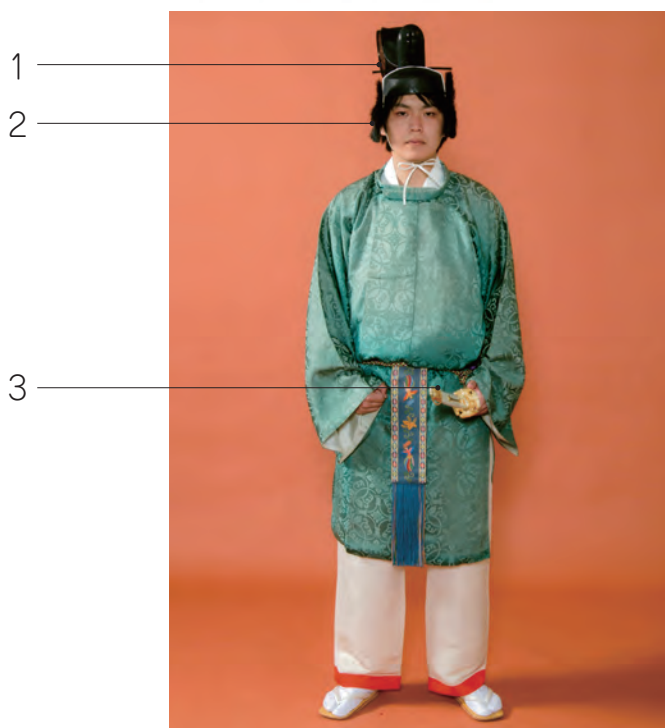
看督長【かどのおさ】

検非違使庁の下級職員で、身分は火長。弘仁式制では左右それぞれにつき二人と定めら

れ、貞観・延喜式制に継承されているが、その後次第に増員され、長元八年（一〇三五）の『看督長見不注進状』（『平遺』五二九〜三七）では左右合わせて十五人を数える。獄直や犯罪の捜査・追捕等を任務とする。尉を中心として編制される警察部隊の一員として出動することがあるが、単独ないし少数の従者を率い、事に従うことが多い。しばしば行き過ぎた捜査や追捕を行い、京民から頼りにされる一方で、恐れられもした。その武力は悪鬼魔神を懼伏するという信仰を生み、『徒然草』二〇三には主上御悩の時、五条の天神に看督長の鞆をかけることが見え、『神道名目類聚抄』には守門の神を看督長と称したとある。



1. 冠かんむり
2. 綾あや
3. 太刀たち



齋宮十二司官人【さいくうじゅうじゅうにしかんじん】  
齋宮寮に属して十二の仕事をする司で勤務する官人



齋王の乗る輿（葱華輦）を担ぐ人です。



## 齋王【さいおう】

天皇の即位ごとに、未婚の内親王（天皇の娘）あるいは女王（天皇の兄弟の娘など）の中から占いで選ばれ、天皇の譲位や崩御、あるいは肉親の不幸などにより解任されて、都に帰る決まりになっていました。伊勢神宮の祭りには、六月・十二月の月次祭と九月の神嘗祭に関わるのみで、ふだんは齋宮の中で都と同様の生活を送っていたものと考えられています。

古代から中世にかけての文学作品に登場する齋王も多く、『源氏物語』『伊勢物語』など、多くの文献に残されています。

## 十二単【じゅうにひとえ】

十二単とは近世になってからの呼び名で、正しくは女房装束、または裳唐衣といえます。単衣の上に袿を重ね、打衣、表着の上に乗せる唐衣をはおり、腰には前部のないプリーツスカートのような裳をつけます。貴族の女性の晴の衣裳（正装）です。

髪は垂髪、作り眉。上衣は、上から順に唐衣、表着、打衣、袿、単となっています。唐衣は袿、衿合わせがなく、上からはおりません。表着は上の御衣とも呼ばれる垂領広袖の衿仕立てです。打衣は砒で打って光沢を出したところからこの名があります。形は表衣と同じで紋様はありません。袿は、内衣の意味で、垂領、広袖の衿仕立てで地紋があり、数枚重ねて用います。単は袿と同形ですが、衿、丈ともに長く、単仕立てで裾はひねり仕立てになっています。下衣

には袴と裳（若年未婚は濃色）をつけてます。袴は緋の長袴（若年未婚は濃色）、裳は背にあてて結び、後に長く垂らして引きます。



- |                     |          |
|---------------------|----------|
| 1. 垂髪               | 2. 唐衣    |
| 3. 表着               | 4. 打衣    |
| 5. 衣 (袿) (枚数を重ねている) |          |
| 6. 単                | 7. 長袴    |
| 8. 裳 (全体)           |          |
| 9. 裳の小腰             | 10. 裳の引腰 |
| 11. 檜扇 (相扇)         | 12. 帖紙   |
| 13. 日陰の糸 (玉かずら)     |          |
- ※齋王が付けていたかどうかは定かではありません。



## 内侍または命婦【ないし または みょうぶ】



齋宮で働く女官たちの最高責任者として、乳母や女孺の上にいる立場にありました。

## 女別当【によべつとう】



内侍や宣旨が、齋王の住むエリアで公的性質をもつ仕事をこなす女官であるのに対して、乳母のように、齋王のプライベートな「宮家」としての用向きを担当していたのではないかと考えられますが、詳しいことはわかりません。

## 乳母【めのと】

母親に代わって養育を受け持つ女性で、齋宮には、齋王個人の「家」に仕える存在として、二名ないし三名が務めるようになっていました。

## 女孺【にようじゆ】



「めのわらわ」ともいう女官で、一から三等に分かれており、それぞれに課せられた実務を担当していました。

## 采女【うねめ】



都では、地方の郡司の娘から選ばれ、天皇の御前などに奉仕していました。しかし、齋宮に采女がいたかどうかについてはよくわかっていません。

## 童・童女【わらわ・わらわめ】

都の官人が、家族で齋宮に赴任したということも考えられますが、その子供達が齋宮内に住んでいたという可能性はあります。しかし、群行の一員として加わっていたということとはなかったようです。





第三十九回 齋王まつり

# 齋王フォトコンテスト

齋王賞



「祈り」 伊勢市 岡啓一



明和町教育長賞

「齋王旅立ちの時」 津市 石野 孝廣



明和町長賞

「彩り群行」 伊勢市 坂本 信広



「水辺の花々」 津市 問宮 美知子

明和町議会議長賞

「齋王の刻をあなたに」 松阪市 後藤 ミユキ



齋宮歴史博物館館長賞



「舞う」 明和町 潮田 恵美子



特別賞



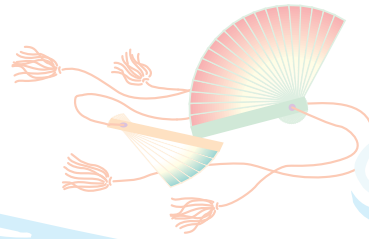
特別賞

「永遠の祈り」 明和町 西岡育生

「檜扇への想い」 明和町 井上清



特別賞



「大役を終えて」 津市 水谷賢次



特別賞



特別賞

「群行」 伊勢市 中野 裕也

### 齋王まつりフォトコンテスト作品募集

#### ◆サイズ

・カラーまたは白黒作品でサイズは四つ切のみ。

#### ◆応募締め切り

・令和5年7月14日(金)当日消印有効

(郵送中の事故、破損については責任を負いかねます。)

#### ◆応募方法

・応募用紙を作品裏面に貼付、郵送または齋王まつり事務所受付。

#### ◆応募上の注意事項

・応募作品には、応募者本人が撮影したもので一人2点以内(未発表の作品)に限りま。

・応募用紙の各項目に楷書で記入し、題名・お名前にはかならずフリガナをつけてください。

(複数応募の場合はコピーしてください。)

・入賞、入選作品については、あらかじめデータをお借りすることがあります。

・パンフレットやポスター、ホームページなどへの使用権は主催者に帰属します。

・応募作品のご返却はいたしません。

#### ◆賞

・入賞は、10賞(齋王賞ほか)、入選は10作品

#### ◆選考方法

・作品は齋王まつり実行委員会にて選考いたします。

#### ◆発表

・HPにて発表いたします。

・入賞者には直接通知いたします。(8月上旬頃)

#### ◆応募先

齋王まつり実行委員会「フォトコンテスト」係

#### ◆応募・問い合わせ先

〒515-0321

三重県多気郡明和町齋宮2811番地

齋王まつり実行委員会事務局

電話 0596-15210054

※ご記入いただいた個人情報(フォトコンテストに関する連絡のために使用させていただきます)はお預かりした個人情報に基づき、適切に管理します。





第37代 齋王役  
菅尾 夏季

## 齋王役を務めて

長引くコロナ禍の中、みなさまに支えていただき、第37代齋王役を務めさせていただきました。心より感謝申し上げます。

3年ぶりに行われた齋王まつりで齋王役を務めて、実行委員会の方々や出演者OG会のみなさまなど祭りにかける多くの人の思いを目の当たりにしました。

「来年に繋げられるように頑張ろう。」と話した第36代齋王役の梅田優歩さん。

「久しぶりに齋王さんが見られて嬉しい。」と言ってくくださった見物客の方。

思いの詰まったたくさんの言葉を聞いて、祭りを存続させていくことの大切さを痛感しました。

齋王役として、齋王まつり以外に大淀ふれあいキャンプ場安全祈願祭や第39回

齋王まつりフォトコンテストに出席したほか、齋王撮影会や国史跡齋宮跡平安

絵巻プロジェクトオンラインマッピングに出演

するなど大変貴重な経験をさせていただきました。

きました。

今後も齋王まつりの益々の発展をお祈

り申し上げます。



葱華輦復元模型(齋宮歴史博物館蔵)

## 永遠につづく齋王の祈り

齋王まつり実行委員会 代表 森田 均

昨年の第三十九回齋王まつりは、急な開催決定となりましたがコロナ対策を整え、三年ぶりに無事開催することが出来ました。心より御礼申し上げます。

コロナもようやく落ち着きをみせ、各地の観光地は以前のよう賑わいが戻ってきています。

このまま平穏な日々が続く事を願い、そしてこれからもこのまつりが長く受け継がれるようサブタイトルを「永遠につづく齋王の祈り」としました。

齋王まつりも今年で四十回、明和町制も六十五周年の節目を迎え、スタッフ一同新たな気持ちで準備に取り組んでおります。

今年六月三日(土曜日)の一日開催となります。

内容としては、第一部として午後より「褌の儀」を上園芝生公園にて執り行い、その後、まつりのメインである齋王群行・社頭の儀を実施します。

第二部においてはさくう平安の社会場の特設ステージでのアトラクションから始まり、十九時からは特別ゲストとしてご招待しております明和町出身の作曲家・長岡成真氏企画によるすばらしい演奏を御鑑賞していただきたいと思っております。

同時に月あかりの群行(会場内でのミニ群行)も予定しており、月あかりの中の雅で美しい行列をお楽しみください。

又、同時開催のいつきのみやマーケットやキッチンカー 屋台の出店も多数予定しておりますので御家族そろって楽しんでいただきたいと思っております。

最後に、長く愛されるまつりとして継続し開催していくため我々実行委員一同これからも努力していく所存です。

このまつりを楽しんでくださる皆様にも引き続きのご理解・ご支援を賜ります様、なにとぞよろしく御願ひ申し上げます。



JAPAN HERITAGE  
日本遺産

## 主催 / 齋王まつり実行委員会

後援◎三重県、明和町、明和町議会、明和町教育委員会、明和町観光協会、明和町商工会、齋宮歴史博物館、(公財)国史跡齋宮跡保存協会、(一財)民族衣裳文化普及協会、中部運輸局三重運輸支局、近畿日本鉄道株式会社、NHK津放送局、三重テレビ放送(株)、三重エフエム放送(株)、松阪ケーブルテレビ・ステーション(株)、皇學館大学

協力◎有限会社 中部レジャー

問い合わせ◎齋王まつり実行委員会事務局 TEL.0596-52-0054 FAX.0596-52-7274

<http://saioh.jp>

定価100円